

近現代イギリス史を中心に研究している稲垣ゼミでは、福岡と長崎を訪れました。九州では古くから西洋との関わりがあり、現在でも多くの西洋建築物が残されています。1日目には福岡の国立博物館のある太宰府地区を見学し、2日目と3日目は長崎市内の史跡を巡検しました。また、西洋建築以外の名所旧跡にも足を延ばすことで、その地域の文化や歴史を理解することを目指しました。



【九州国立博物館】

九州国立博物館を訪れ、火山の噴火によって埋没した都市、ポンペイの展示を見ました。生き埋めになってしまった女性の石膏や出土品が噴火の様子を物語っている一方で、劇場や円形競技場などの建築物や食の展示などからは、人々が暮らした都市としてのポンペイの様子を知ることができました。古代ローマについての西洋史特講の授業内容を思い出しながら見学したゼミ生も多かったようです。





【新地中華街】

長崎新地中華街は、横浜、神戸と並ぶ日本三大中華街の一つです。1698年の大火の後、唐船の貨物を保管するために海を埋め立て、倉庫が建築されたことが街の始まり。現在では東西、南北合わせて250メートルに及ぶ十字路に中国料理店や雑貨店が立ち並んでおり、ちゃんぽんや皿うどん、角煮まんじゅうが有名です。私たちが訪れたのは昼時であったため、修学旅行等の観光客で賑わっていました。



【出島】

出島は1636年に江戸幕府の対外政策の一環として長崎に築造された、扇形の人工島です。1636年から1639年まではポルトガル貿易、1641年から1859年まではオランダ貿易が行われていました。1639年から「鎖国」政策を開始した日本にとって、出島は欧米へと繋がる重要な場でした。医学・植物学・物理学・天文学等の蘭学の窓口となり、各藩から長崎への遊学者は2000名にまで及んだと言われています。

【グラバー園】



グラバー園は、その名の由来となったトーマス・ブレイク・グラバーをはじめとする外国人商人達のかつての住まいが現存する場所として知られています。150年以上の歴史を持つ旧リンガー住宅、旧オルト住宅、旧グラバー住宅はそれぞれ国指定重要文化財に登録されています。中でも旧グラバー住宅は日本最古の木造洋風建築であり、国指定重要文化財であると同時に世界遺産にも登録されています。

【長崎歴史文化博物館】



長崎歴史文化博物館は近世長崎の歴史文化に関わる古文書や歴史資料などが集められた「海外交流史」をテーマとした博物館です。私たちが訪れた際は江戸時代はじめに明から渡来した黄檗僧である隠元についての展示がされていました。長崎市指定文化財を含む様々な資料を通して、隠元と黄檗文化が日本に与えた影響など、当時の日中関係を知ることができました。その歴史の名残は現代にも及んでおり、歴史の奥深さを実感するとともに今後の研究への意欲が強まりました。



【平和公園】



平和公園は当時の原爆の被害の実相を伝える世界平和・国際交流の場として、1955年に開園しました。園内には神の愛と仏の慈悲を象徴する平和祈念像や、世界各国から送られた平和を象徴するモニュメント、原爆の被害を受けた長崎刑務所浦上刑務支所跡が被爆遺構として保存展示されています。平和公園内にある「平和の泉」と「平和祈念像」は、原爆犠牲者の冥福と恒久平和を願う祈りの空間です。平和を祈り原爆を繰り返さないことを願って飾られる千羽鶴が何十個もあり、世界中から寄せられた平和への思いが感じられました。

【原爆資料館】



1945年8月9日午前11時2分、長崎に原爆が投下されました。この資料館は、その瞬間から現在まで続く原爆の被害を伝えてくれる貴重な空間でした。全身が焼け爛れた人や、黒焦げになった遺体の横で立ちすくむ子どもの写真には強い印象を受けました。ロザリオなどの遺品は、長崎という地の被害を特徴付けていました。見学後、皆が言葉少なに深刻な表情をしていたことも印象に残っています。戦争の恐ろしさ、残忍さと、平和への意志を再認識しました。

—旅を終えて—

今回の研修旅行では、近世～近現代史に関係する史跡に焦点を当てました。出島や平和公園、長崎原爆資料館においては、ゼミ員の興味関心も特に高く、学び得たものを自分の研究に活かそうとする意志を強く感じました。九州国立博物館や長崎歴史文化博物館では、様々な時代・地域を横断する内容が扱われており、各自の研究を長期的・多角的・多面的に振り返るきっかけとなりました。今回の研修旅行で学び得たものを、今後の研究に活かしていきたいです。